伊曽島小だより

NO. １３

よく学び　よく遊び　心豊かでたくましく生きる　伊曽島っ子の育成　２０２６．10．１５

快晴の中　全員が最後まで全力を出し切った、すてきな、かっこいい、運動会でした。

















伊曽島小がひとつになって、かがやいていました！



フェーズフリー　備えない防災



普段使っている物を災害時にも使えるようにすることをフェーズフリーというのだそうです。たとえば中学生の制服を裏返すとオレンジ色の生地になっていて、災害時の服に変わるというフェーズフリーグッズがあるそうです。寝袋に変身するクッションやカセットコンロなども災害時に活用できます。

私はこのやり方が一番良いと思っています。たとえば非常食や非常用のグッズがあっても普段使わず、しまっておくだけだともったいないし、期限が来たときにわざわざ買い換えないといけないので面倒になってしまうと思うのです。

しかし、普段使っている物がそのまま災害時にも使えるなら、わざわざ特別に用意する必要がないし、慣れているから使いやすいと思うのです。最近はアウトドアブランドで、防災用のキャンプグッズが売られていたり、キャンプでもふだんでも使えるような物があります。

学校の防災キャンプにも、この考えは取り入れられると思います。たとえば、テントを張って泊まるのではなく、多目的ホールの床に防災用の毛布を使って寝る。食事もキャンプ用に用意するのでなく、備蓄食料や備蓄してある水を使う。等の方法が考えられます。

家でも、防災の日をつくって、電気を使わず備蓄してある食料だけで生活する日をつくるとおもしろいかも知れませんね。１年間保存できる食料を用意しておいて、その日に食べたらまた１年後の分を買っておくとかすると、継続していけるのではないでしょうか。今年うまくいかなかったところを来年はこんな風にしようとか考えるのもおもしろいかも。

実際に災害に遭ったときには楽しんでなどいられませんが、訓練は楽しく行えると良いですよね。

１０月２２日２３日は５年生の防災キャンプです。

ノーベル賞　今年は**砂合憲三**さんが化学賞を受賞しました。

日本のノーベル賞受賞者30人のうち出身大学は京大が多くその次に東大と続くのですが、出身高校は意外と地方の公立高校が多いのだそうです。逆に東大に多くの合格者を出すような有名私立高校出身者は2人しかいないそうです。その理由の一つとして考えられるのは、地方（いなか）は自然にかこまれていて、身の回りに不思議な物がたくさんあることです。都会は自分のまわりが人間が考えてつくった人工物ばかりなので、あらゆることはもう分かっていると思い込んでしまうことになるようです。「なぜ、人は眠たくなるのか」という誰もが考えつくような疑問でさえ、まだはっきりと分かっているわけではありません。

インターネットやAIの答えがすべて正しいと思ったら大間違いです。自分の頭で考えて答えを出すことが大切です。